

**2019年度
履修証明プログラム募集要項**



Gifu Shotoku Gakuen

**岐阜聖徳学園大学
岐阜聖徳学園大学短期大学部**

1. 履修証明プログラムについて

履修証明プログラムは、社会人等の学生以外の者を対象とした特別の課程です。教育・研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムで、目的・内容に応じ総時間数 120 時間以上で設定されています。プログラムの修了者には、学校教育法に基づく履修証明書を交付します。

2. 開講プログラム名称

2019年度開講プログラム名称の詳細は別紙1の通りです。

3. 履修資格

次にいずれかに該当する者

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び2019年3月に卒業見込みの者
- (2) 本学において、個別入学の資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

注1) 上記の(2)に該当する場合は、履修受付期間の2週間前までに、履修するプログラムの担当教務課へ問い合わせてください。

注2) 日本語を母語としない者は、独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験(日本語科目)の「読解」・「聴解・聴読解」領域の合計得点を200点以上かつ「記述」の得点を25点以上取得、又は日本国際教育支援協会と国際交流基金が実施する日本語能力試験のN1又はN2に合格していることが望ましい。

4. 履修受付期間

履修時期	受付期間
前期 通年	2019年2月25日(月)～3月1日(金)
後期	2019年7月29日(月)～8月2日(金)

5. 出願手続

所定の検定料を納入し、下記の書類を履修するプログラムの担当教務課宛に、簡易書留にて郵送してください。

なお、開講プログラム毎に出願書類の提出先が異なりますので、注意してください。

直接持参される場合は、次の時間内とします。

月～金曜日 9時00分～17時00分
土曜日 9時00分～12時30分

(1) 提出書類

① 履修証明プログラム受講願	本学所定の様式
② 履歴書	様式自由・写真貼付のこと
③ 卒業証明書又は見込証明書	最終出身校発行のもの (出願時点で大学・大学院に在籍している場合は、大学・大学院の在学証明書をもって代えることができる)

④ 健康診断書	一般的な内容のもの（身長、体重、視力、聴力、血圧結核の有無（レントゲン）、尿検査、問診）
⑤ 検定料受取書（写）	検定料の振り込みの際に金融機関から発行される受取書の写し
⑥ 在留カードの写し又は住民票	外国籍の者のみ①～⑤の書類に加え提出のこと

（２）検定料の納入

検定料は次の口座へお振り込みください。

銀行名 大垣共立銀行 岐阜支店

口座種目 普通

口座番号 668965

口座名義 学校法人 聖徳学園（ガッコウホウジン ショウトクガクエン）

振込依頼人 CP（お名前）

（例）CPショウトクタロウ

6. 履修諸費（学費）

（単位：円）

検定料	科目履修料
5,000	2,500（履修1単位につき）

7. 選考方法

①提出書類の審査

②面接 ※面接を省略する場合があります。

8. 選考結果の通知

選考結果は、次の期日付け本人あてに通知します。

前期及び通年履修者：2019年3月29日（金）

後期履修者：2019年9月6日（金）

9. 履修手続

履修手続については、選考結果（履修許可）通知時に同封して通知します。

10. 履修時期と開講キャンパス

科目の履修時期は次のように決まっています。

前期・・・おおよそ4月第2週から8月第1週にかけて授業を行います。原則として毎週同じ曜日の同じ時限に90分の授業を行います。

後期・・・おおよそ9月第4週から1月第4週にかけて授業を行います。原則として毎週同じ曜日の同じ時限に90分の授業を行います。

集中・・・8月～9月の夏季休業期間、または2月～3月の春季休業期間に、連続して1日複数回の授業をまとめて行います。

※前期・後期の開始・終了日や休業期間は年度により異なります。担当教員や学内行事による臨時休講や、補講を別の曜日・時限に行うことがあります。

開講場所は授業により羽島キャンパス（岐阜市柳津町高桑西1-1）または岐阜キャンパス（岐阜市中鶉1-38）のいずれかで開講します。

詳しい授業スケジュール、開講場所は申込時にお問い合わせください。

11. 修了認定

(1) 授業科目の履修認定

本学の成績評価基準において「合格（60点以上）」と判定された場合、授業科目の履修を認定します。（履修証明プログラムでは、単位認定されません。）

なお、成績評価基準において「不合格（59点以下）」と判定された科目については、再履修（追加受講料必要）することが出来ます。詳細については教務課にお問い合わせください。

(2) 履修期間・履修証明書の交付

履修証明プログラムの履修期間は原則2年間です。

この期間内に指定の修了要件を満たした場合、履修証明プログラムの修了を認定し、履修証明書を交付します。

【問い合わせ・書類提出先】

事務局	住所	電話番号	メールアドレス
岐阜聖徳学園大学 岐阜教務課 (岐阜キャンパス)	〒500-8288 岐阜市中鶉1-38	(058) 278-0731	gifukyomuka@shotoku.ac.jp
岐阜聖徳学園大学 羽島教務課 (羽島キャンパス)	〒501-6194 岐阜市柳津町高桑西1-1	(058) 279-3493	kyomuka@shotoku.ac.jp

プログラム1 「釈尊の教えと親鸞聖人の教え」

学部等名	教育学部 外国語学部 看護学部 短期大学部
目的	仏教（特に浄土真宗）の教えを学び、仏教的人生観の確立を目指す。
プログラムの概要	本プログラムは、仏教に関心のある社会人を対象に、仏教（特に浄土真宗の教え）を学び、仏教的人生観の確立を目指すことを目的として、大乘仏教の精神を建学の精神とする岐阜聖徳学園大学の開講科目の受講を通して、釈尊の教えや浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の教えを学び、一人一人の受講生の人生観を探るカリキュラムを提供するものである。
プログラムの総時間数	157.5 時間
修了に要する時間数	120 時間
定員	10 名
修了要件	5 科目すべてを履修すること
申込先	羽島教務課(羽島キャンパス 7 号館 1 階)
履修料	総額 40,000 円(検定料 5,000 円 科目履修料 2,500 円×14 単位) ※再履修する場合はそれぞれの単位数に相当する金額が必要です。

修了要件受講科目一覧

授業科目名	宗教学Ⅰ	担当教員名	蛭川 祥美、河智 義邦
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	必修科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 宗教について概観した上で、本学の建学の精神である仏教精神についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業の概略】 現代社会には、実にさまざまな宗教が存在しているが、真実の宗教とは、人としての生き方・あり方を示し、日々の生活の中で直面する悩みや苦しみを乗り越えさせるはたらきをもつものである。本講義は、世界宗教や各地の民族宗教を概観することよりはじめ、特に仏教精神を学ぶ。本学の建学の精神である仏教精神は、インドのカースト制を否定するなど、生命の平等性を示すものであり、「縁起」、「諸行無常」などの思想によって、生命のつながりとはかなさを知らせ、その尊厳性を示すものである。これらを学ぶことは、人類共通の「生命とは何か」といった命題の答えを探ることにもなる。</p>		
授業科目名	宗教学Ⅱ	担当教員名	蛭川 祥美、河智 義邦
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	必修科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 日本の宗教について概観した上で、特に本学の建学の精神である仏教精神についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業の概略】 本講義は日本の宗教、主に神道と仏教について学ぶ。特に、本学の建学の精神と関わりの深い聖徳太子の仏教信仰と、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の仏教思想について詳しく考察する。聖徳太子の仏教信仰は、あらゆる生命の平等性に目覚め、他者に寛</p>		

	容な心を持ち、他者の救済を目指すことを志向するものであり、親鸞聖人の仏教思想も、あらゆる生命を救う阿弥陀仏の心に気づいて、自らを律し、浄土往生、即ち生死を超えた理想の心の実現を目指すものである。また、現代の真宗門徒のターミナルケアへの取り組み「ビハラー活動」についても紹介する。これらを学ぶことは、日本人の「生死観とは何か」といった命題の答えを探ることになる。		
授業科目名	仏教の生命観	担当教員名	蛭川祥美
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	必修科目
単位数	2 単位 (¥5, 000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>「なぜ命は尊いのか」というテーマに、仏教思想を参照しながら、受講生一人ひとりが考察できるようになることを目標とする。</p> <p>【授業の概略】</p> <p>古来より人類が探求してきた「生命とは何か」というテーマについて、諸宗教や科学思想などを概観することより始め、特に仏教思想における生命観を中心に考察する。</p>		
授業科目名	真宗概論	担当教員名	河智義邦
授業の方法	講義 45 時間(前後期各 15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	必修科目
単位数	4 単位 (¥10, 000)	開講期	通年
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>親鸞によって明らかにされた浄土真宗教義の特色について学ぶことを目標とする。また、本科目は浄土真宗本願寺派教師資格取得のための授業でもあるので、そういった視点も鑑みながら、現代社会の思潮に対して親鸞思想がいかなる意義を有するのか、実践的な面も考えていきたい</p> <p>【授業の概略】</p> <p>真宗とは、日本中世・鎌倉時代に親鸞が明かした「浄土真宗」の略称である。一般的には宗派(団体)の名前として認識されているが、この名称には「浄土(教)の真実の宗・趣旨(教え)」という意味があり、親鸞自身は多くは後者の意味で使用していた。その意味において、真宗(浄土真宗)を学ぶとは、浄土真宗という宗派のことについて学ぶことに主眼があるのではなく、親鸞が「大乘(仏教)の中の至極」と明かしたその教義を学ぶことにはほかならない—無論その歴史展開(親鸞の思想を各時代において解釈していく営み)として成立する浄土真宗教団(宗派としての浄土真宗)についても触れるが、ここでは、親鸞その人の思想を中心に窺う—。</p>		
授業科目名	仏教史	担当教員名	蛭川祥美
授業の方法	講義 45 時間(前後期各 15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	必修科目
単位数	4 単位 (¥10, 000)	開講期	通年
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>インドからアジア諸地域に広がった仏教教団の歴史について理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業の概略】</p> <p>前期は、インドで成立した仏教教団の歴史を概観した後、主にセイロン島へ伝播し、東南アジアに広がった上座部仏教の歴史、主に西域地方、中国、朝鮮半島へと伝播した大乘仏教の歴史について考察する。後期は、日本に伝播した大乘仏教の歴史について考察する。数回にわたって、視聴覚教材を鑑賞して講義の理解を深めてもらう予定である。</p>		

プログラム2「数学入門」

学部等名	教育学部 数学専修
目 的	高等学校までの数学から専門的な数学を学ぶ初学習を行う。それとともに生活の中で使われている数学について学ぶ。
プログラムの概要	本プログラムは、数学に関心のある社会人を対象に、各数学分野の入門にあたる部分を学んだり、生活の中で使われている数学について学んだりする。
プログラムの総時間数	180 時間
修了に要する時間数	135 時間
定 員	5 名
修了要件	8 科目の中から 6 科目以上を履修すること
申込先	羽島教務課(羽島キャンパス 7 号館 1 階)
履 修 料	検定料 5,000 円、科目履修料 2,500 円×単位数 ※再履修する場合はそれぞれの単位数に相当する金額が必要です。

修了要件受講科目一覧

授業科目名	代数学序論 I	担当教員名	山内 紀夫
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 (1) 行列と行列式の基本的な計算が出来る (2) ベクトル空間とその基底について理解し、基底を求めることのできる線形代数学の基本 (ベクトル・行列・行列式) の学習</p> <p>【授業の概略】 次の順で学習を進めていく。 (1) 行列の基本的な計算 (2) 行列式の性質 (3) ベクトル空間 (4) 1 次独立性と基底</p>		
授業科目名	代数学序論 II	担当教員名	山内 紀夫
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 ベクトル空間の構造と線型写像の性質及びそれらと連立 1 次方程式の関係を理解し、具体的な例、問題を処理することができる。 線形代数の中心的な主題であるベクトル空間と線形写像の基本事項とその応用としての行列を利用した連立一次方程式を学習する。</p> <p>【授業の概略】 代数学序論 I で学んだベクトルや行列の知識・理解に基づいて、ベクトル空間、線型写像の定義・基本性質と連立 1 次方程式について解説する。また、それらを基礎として線型変換の対角化を解説する。</p>		

授業科目名	幾何学序論 I	担当教員名	福田 茂隆
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 初等幾何学における作図論・面積論・相似論の原理に習熟する。</p> <p>【授業の概略】 初等幾何学の根本を見つめ直す。小学校、中学校、高校での教材として初等幾何の足元をもう一度見つめ直し、何故そうなのかをユークリッド原論の視点から考える。 目標：最初の 5 回は作図論、次の 4 回は面積論、その次の 3 回は相似論である。</p>		
授業科目名	幾何学序論 II	担当教員名	福田 茂隆
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 オランダの数学教育学者ファン・ヒーレは、幾何学的思考水準理論で、5 段階の発達段階 (0. イメージ、1. 定義 (観点)、2. 命題 (A ならば B)、3. 証明 (演繹)、4. 公理系) を提唱した。本講義の到達目標は、この幼小中高と続いてきた幾何学教育の最終段階 (公理系) の習得である。これは、現代幾何学への扉でもある。したがって、本講義のテーマは「ユークリッド幾何の公理主義的構成」となる。</p> <p>【授業の概略】 小学校・中学校で学習する、座表軸を用いる以前の [線分の長さや角の大きさに基づく] 図形の学問を、初等幾何、古典幾何、又はユークリッド幾何と言う。実はこの幾何は、ごく少数の原理原則 (公理) から体系的に組み立てられる。これを公理主義という。この体系は、紀元前 3 世紀ギリシャのユークリッド『原論』にはじまり、20 世紀初頭ドイツのヒルベルト『幾何学基礎論』により完成された。本授業では、このヒルベルトの体系を、素朴な実数概念を前提とすることで、平易に解説講義する。</p>		
授業科目名	解析学序論 I	担当教員名	藤垣 佳子
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 一変数関数の微分法(テキスト第 1 章～第 4 章)について学ぶ。この講義では、主に関数の極限と連続性、色々な関数の微分法、テイラー展開についての基本概念を理解することを目標とする。具体的には、一変数関数の極限及び連続性、導関数、指数関数・対数関数・三角関数の微分、ロピタルの定理、テイラー展開に関する問題などを計算できるようにする。</p> <p>【授業の概略】 一変数関数の微分法について、微分及びその応用について学習する。一変数関数の微分法は、それに続く積分及び多変数関数の扱いの基礎となる大切な概念である。高校で学習した内容も織り交ぜながら、演習を交えて講義する。</p>		

授業科目名	解析学序論Ⅱ	担当教員名	藤垣 佳子
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 一変数関数の積分法(テキスト第 5 章～第 7 章)について学ぶ。この講義では、主に不定積分、定積分、広義積分、面積についての基本概念を理解することを目標とする。具体的には、一変数関数の積分法、色々な不定積分及び定積分(置換積分・部分積分・有理関数及び無理関数の積分)、広義積分、面積、曲線の長さに関する問題などを計算できるようにする。</p> <p>【授業の概略】 一変数関数の積分法について、積分及びその応用について学習する。一変数関数の積分法は、それに続く多変数関数の積分の基礎となる大切な概念である。高校で学習した内容も織り交ぜながら、演習を交えて講義する。</p>		
授業科目名	位相数学序論	担当教員名	福田 茂隆
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 高校で学んだ集合・命題の知識をより深め、一般的な集合の基本的な概念が理解できる。集合論の基礎を学ぶ。</p> <p>【授業の概略】 高校で取り上げられる集合・命題の内容から始めていき、より一般的な集合を取り上げていく。さらに写像、同値関係、実数の連続性、集合の濃度を取り上げていく。具体的な例を挙げながらも、抽象的な概念に慣れるための演習も行っていく。数学の諸分野において、理論を展開するために不可欠な部分であり、数学科教員を目指すためには、必須の内容と考えて欲しい。</p>		
授業科目名	生活の中の数学	担当教員名	鈴木 明裕
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 数学が私たちの生活に深くかかわっていることを理解するとともに、数学という視点から物事を考える力を身に付ける。</p> <p>【授業の概略】 これまでの数学の学習を通して身に付けた数学という道具を使って、私たちの生活場面を見直してみる。数学を通してみると、これまでとは違って見えるものがある。また、そうした場面での問題に取り組むことで、身に付けてきた知識や考え方がより確実な、使いやすい道具となることを目指す。授業においては、生活の場面から問題を抽出し、その問題に取り組んでいく。私達の生活や社会には高度な数学が駆使されているが、授業では高等学校までの必須として学習した数学の内容で解決ができる問題を取り扱う。</p>		

プログラム3 「各領域の看護学概論」

学部等名	看護学部
目 的	各看護学領域の概論を学び、看護学の概要と近年の動向を理解する。
プログラムの概要	本プログラムは、現役看護師や離職した看護師のみならず、看護学に関心のある社会人を対象とする。各看護学領域の概論を学び、看護学についての理解を深め、近年の看護学の動向について学ぶ機会とする。大学における看護学教育の概要を学び、看護および自身の健康への関心を高める機会を提供する。
プログラムの総時間数	169.5時間
修了に要する時間数	124.5時間
定 員	5名
修了要件	「看護学概論」は最初に履修すること 8科目の中から6科目以上を履修すること
申込先	羽島教務課(羽島キャンパス7号館1階)
履 修 料	検定料5,000円、科目履修料 2,500円×単位数 ※再履修する場合はそれぞれの単位数に相当する金額が必要です。

修了要件受講科目一覧

授業科目名	看護学概論	担当教員名	上田 ゆみ子
授業の方法	講義 22.5時間(15週にわたり週1回90分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	必修科目
単位数	2単位(¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の構成要素である健康、環境、人間、看護について説明できる 2. 主な看護理論の概要について説明できる 3. 看護の対象及び看護の役割と機能について説明できる 4. 保健医療サービスと看護活動について説明できる <p>【授業の概略】</p> <p>「看護とは何か」という基本的概念について学習する。看護学の主要概念である人間・健康・環境・看護、および看護実践の理論的根拠となる看護理論の変遷とその内容を看護学の発展の歴史的背景を踏まえて、広い視野から学ぶ。さらに現代における看護の役割や機能、看護活動の内容理解を深める。看護過程の基本的知識を学び、2年次に学習する看護過程の事例展開に繋げる。さらに看護を実践していく上で重要な要素である「看護と倫理」について考える。これらの学習を通して、自らの看護観を育んでいくことを目指す。</p>		
授業科目名	成人看護学概論	担当教員名	大久保 仁司
授業の方法	講義 22.5時間(15週にわたり週1回90分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2単位(¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期の人々の身体的、心理的、社会的な特徴を述べるができる。 2. 成人看護学で使用する理論・モデルの特徴を説明できる。 3. 成人期にある人の健康と健康障害の特徴について述べるができる。 4. 成人期にある人の健康問題の特徴を踏まえた看護を提供することの意義と方法を考察することができる。 		

	<p>【授業の概略】 成人期にある人の価値観・健康観の多様性、役割や健康問題など、ライフサイクルの中で生活者としての特徴を踏まえ、健康上のニーズ及び彼らの健康問題に関する知識を習得し、成人看護の役割と機能を考える。</p>		
授業科目名	老年看護学概論	担当教員名	中尾 治子
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 生涯発達を基盤に、高齢者の暮らしや生活する力の多様性や個性を尊重し、 1) 老いの理解、2) 健やかに老いること、その人らしい暮らしとエンドオブライフケア、3) 生き生きすることを支援する地域づくり、について学習する。</p> <p>【授業の概略】 老年看護の意義をふまえ、老年期における身体的特徴、社会的背景および価値観などを全人的に理解する。また、老いを生きるとはどのようなことなのか、健やかに老い、その人らしい暮らしとエンドオブライフケア、生き生きすることを支援する地域づくりについて学習する。さらに、高齢者への福祉対策の動向とその課題を通して、在宅・施設におけるケアと家族介護者への支援について教授する。</p>		
授業科目名	小児看護学概論	担当教員名	大見 サキエ
授業の方法	講義 12 時間(8 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	1 単位(¥2,500)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 子どもを取り巻く社会と、子どもの健康上の問題を理解し、小児看護の果たすべき課題と役割を理解する。 1. 小児看護の特徴を説明できる。 2. 保健統計から現代の小児と家族の健康問題を説明できる。 3. 小児の健康を守るための政策を説明できる。 4. 小児の人権擁護の観点から子どもへの倫理的配慮について説明できる。 5. 取り巻く社会と小児の健康上の問題を説明できる。</p> <p>【授業の概略】 子どもから大人へと成長・発達する変化を踏まえて、小児看護の特徴と看護の果たすべき役割について学習する。子どもに関する統計の数値から、子どもに安全な環境を提供する重要性や学習環境を保障する必要性、子どもの健康維持のための母子保健事業や児童福祉行政などの政策を学び、健やかな育ちの支援について考える。子どもの人権の歴史的背景から、権利擁護の必要性と倫理的配慮について考察する。子どもを取り巻く社会や小児医療の現状から子どもと家族の置かれている状況を知り、個人・家族・集団・組織の支援をしていくために、小児看護の果たすべき課題を考えていく。</p>		
授業科目名	母性看護学概論	担当教員名	門脇 千恵
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期

授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の概念が理解できる。 2. 健康レベルの指標としての母子保健統計の意義が理解できる。 3. 母性のライフサイクルにおける身体的特徴が理解できる。 4. 女性の各ライフステージの特徴・看護の視点が理解できる。 5. 母性の健康の保持・増進の必要性が理解できる。 <p>【授業の概略】</p> <p>女性の健康問題に対する看護の前提となるリプロダクティブ/ヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション、エンパワーメントなどの概念や家族関係の変化、社会の動き（変化）を理解し、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進と次世代の健全育成をめざす看護の重要性を学ぶ。また、女性のライフステージにおける特徴を理解し、母性看護の変遷や母性看護の役割を学ぶ。さらに、母子の健康的な発達や安全を支援し、社会の変化に対応していくための母性看護技術の必要性を理解し母性看護の役割を学ぶ。</p>		
授業科目名	精神看護学概論	担当教員名	小林 純子
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のあらゆるライフステージにおける精神機能の発達と、それに影響を与える諸要因・危機的状況について理解できる。 2. こころの健康の保持・増進および疾病の予防・回復に必要な援助や保健・医療・福祉制度の仕組みを理解できる。 3. こころの健康問題を抱える人の「生きにくさ」を実感でき、その人のストレングスに着目することの重要性を説明できる。 4. 精神医療・看護の歴史の変遷から人権擁護について考察し、自分の言葉で説明できる。 <p>【授業の概略】</p> <p>人間のこころの機能・構造、およびこころの発達に影響を与える諸要因・危機的状況について学習する。特に、人間のライフステージや生活の場におけるこころの健康問題を中心に、現代社会が抱えるこころの健康問題への理解を深めるとともに、こころの健康を保持・増進、回復するために必要な看護およびこころの健康を支える保健・医療・福祉制度の仕組みを学ぶ。さらに、精神医療・看護の歴史の変遷を学ぶことにより、現代社会における精神保健、精神看護の諸問題・課題および人権擁護について考えることを期待する。</p>		
授業科目名	在宅看護概論	担当教員名	未定
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的と特徴（目的論）を理解できる 2. 在宅看護の対象と生活（対象論）について理解できる 3. 訪問看護政策の概要（制度論）を理解する 4. 在宅看護の役割と機能（方法論）について理解する 5. 在宅看護の展開の在り方、考え方（方法論）を理解する <p>【授業の概略】</p> <p>疾病や障害を持ち、在宅で療養する生活者とその家族・生活環境、健康上の課題と在宅における基本的看護活動の特徴を理解する。在宅で質の高い療養生活を安定して行えるように支援する</p>		

	ために、地域包括ケアシステムにおけるコミュニティの助け合い、保健医療福祉の連携のあり方等、共助社会のあり方について学ぶ。そして、地域で生きる、暮らすことを支えるための制度と社会資源について理解し、在宅ケアの多職種連携とマネジメントにおける看護職の役割について、創造的に学習する。		
授業科目名	公衆衛生看護学概論	担当教員名	古澤 洋子
授業の方法	講義 22.5 時間 (15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5, 000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護学の変遷を知り、理念や目的を説明できる 2. 公衆衛生看護の対象・活動の場や活動の根拠などを説明できる 3. 地域の人々の健康課題を明確にし、それに対応する公衆衛生看護活動の意義・方法を説明できる <p>【授業の概略】</p> <p>公衆衛生看護の基本理念と目的、ヘルスプロモーションを理解する。地域に住む対象者の健康問題の影響要因を特定し、コミュニティレベルでの疾病予防、健康状態の改善、多職種との連携、社会資源の充実を目指して行われる看護活動を学ぶ。事例に基づき、健康課題別・健康危機管理を含む状況別の活動内容、健康教育や相談による予防的介入を基盤とした看護活動を学ぶ。</p>		

プログラム4 「Yawaragi プログラム」

学部等名	学部共通
目 的	社会を生き抜く力を身に付ける
プログラムの概要	本プログラムは、本学の教養基礎科目で開講されている人文科学、社会科学、自然科学、複合領域の分野を総合的に学ぶことで、社会を生き抜く力を身に付けます。
プログラムの総時間数	180 時間
修了に要する時間数	135 時間
定 員	5 名
修了要件	8 科目の中から 6 科目以上を履修すること ※同一科目で副題が異なるものを重複して履修することはできません。
申込先	羽島教務課(羽島キャンパス 7 号館 1 階)
履 修 料	検定料 5,000 円、科目履修料 2,500 円×単位数 ※再履修する場合はそれぞれの単位数に相当する金額が必要です。

修了要件受講科目一覧

授業科目名	ジェンダー論 「私たちを取りまく社会」	担当教員名	河原崎 やす子
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 男女の性差を示すジェンダーという概念を理解し、身の回りにあるジェンダー問題がどのようなものかを知る。その上で、ジェンダー平等に向けてこれからどのような社会が望ましいか、自分はその社会でどのように生きていくか、を共に考える。</p> <p>【授業の概略】 本講義ではまずジェンダーとは何かを知り、自分たちの身の回りからジェンダーに関する項目を見出し、当たり前だと思っていることが本当に当たり前なのかを考える。そして自分がどのように生きていくかということまで視野を広げながら、社会を見る目を養成する。授業内ではグループで考え、話し合うことが重要なので、出席は必須。また新聞を使って現代の生きた社会を読み取る訓練をする。</p>		
授業科目名	家族と社会保障 「私は生きる」	担当教員名	河口 尚子
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 日本の社会保障制度は、「給付は高齢世代、負担は現役世代」で「男性稼ぎ主が妻・子どもを養う」という枠組みであったが、それでは機能しなくなっている。背景として働く環境の変化とともに家族のありようの変化がある。そこで授業を通して、現代日本の家族の特質や社会保障の基本的な枠組みについて理解し、あるべき社会保障について自分なりに考えることができるようになる。</p> <p>【授業の概略】 現代の家族のありようについて、家族形態の変遷、結婚、子育て、大きな社会問題と</p>		

	なっている子ども虐待、働く環境の変化、介護等を取りあげ、それぞれの内容についての知識を深める。また社会保障制度の基本的な枠組みについての知識をえるとともに、高齢世代中心型から全世代型への転換がもためられている社会保障の動向について理解する。		
授業科目名	災害と危機管理 「災害とボランティア」	担当教員名	森田 匡俊
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 自然災害の発生メカニズムを正しく理解すること、災害発生時に被害を最小限に食い止めるための応急対策術を身につけること、災害発生に備えた日ごろからの取り組みを学修することを到達目標とする。日本で発生する自然災害を主に取り上げ、それらの発生メカニズムや対策を本講義のテーマとする。</p> <p>【授業の概略】 本講義では自然災害と、それに対する予防・回避と発生した際の損害を最小限に食い止める危機管理について学ぶ。前半部では、世界各地の気候や地形などの地理的特徴を学習し、そこでみられる大雨、暴風や竜巻に伴う風水害、雪害、森林火災、干ばつ、地震、火山噴火、土砂災害などについて、成因を含めて具体的事例をもとに考察する。後半部では、それらに対する危機管理について、地域での対策、住民意識、救急看護の現場、ボランティア活動の実態、学校での防災対策などについて考察を進める。なお、後半部は他学部、他学年、他専修の学生をランダムに編成したグループ単位での活動が中心となる。</p>		
授業科目名	キャリアプラン 「就職とビジネス」	担当教員名	河野 公洋
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 経済・経営・ビジネス（社会科学）の視点から、現代社会の簡単なくみと、現状を理解してもらおう事が目標です。毎回授業計画に基づくテーマに合わせて、卒業後、様々なフィールドで、「社会人」として生きていく、基礎的な、知識を紹介します。</p> <p>【授業の概略】 2016 年現在の、日本や世界の経済・ビジネス環境と、様々な業種・業態のそれぞれの現状と問題点を、解説します。たとえば、「少子高齢化」、「TPP」、「デフレ」、「景気」という用語は知っていても、これからの世の中で、何が、どのように問題になるのか？またその為に、今、ビジネスの世界では、どのような変化が起き、どう変わるのか？人文科学、自然科学の分野で、知見を深めて行く学部生にも、判りやすく教養を広めてもらいます。</p>		
授業科目名	キャリアプラン 「就職とビジネス」	担当教員名	大成 利広
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 到達目標は、経営の 3 要素であるヒト・モノ・カネに関する基礎的な知識を習得し、</p>		

	<p>就職活動に役立てることができるようになる。</p> <p>テーマとしては、就職活動で会社を選択するときに学生自身にとっての良い会社を選択する目を養う能力を身につけ、会社の分析の手がかりを自らとらえることができるようにする。</p> <p>【授業の概略】</p> <p>経営の3要素であるヒト・モノ・カネに関する基礎的な知識については、どのような人材が組織に必要とされているのか、またどのように管理されているのか、製品や商品のマーケティングや在庫管理、金融資産投資や設備投資などのお金の調達と運用についての基礎を学習する。また、販売士や簿記などの検定関係の基本的な学習も行う。</p>		
授業科目名	異文化論 「向こう側にあるものを読み解く」	担当教員名	宮野 裕
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>学生が自ら、異文化理解の方法について考え、自分なりの手法を身につける。</p> <p>【授業の概略】</p> <p>まずは異文化とは何か、また文化が異なるということについて考えていきたい。ついで特に我々が異文化について知る際、それが殆どの場合に本、テレビ、映画、インターネットなどのメディアを通じてであることに鑑み、メディアが伝える情報の特質について論じていきたい。続いて、我々自身がどのようにそうした情報を読み解くべきか、そのための考え方のツールを提供していきたい。尚、授業に際しては、一方的な講義とせず、できるだけ多くの学生に発表や提出物を課したい。それは、具体的な題材について、実際に学生にまずは自分で考えてもらい、授業ではそれを題材にして読み解き方を具体的に考えていきたいからである。受講者数にもよるが複数回発表があたるとしよう。</p>		
授業科目名	岐阜学 「岐阜を知る」	担当教員名	伊藤 薫 秋山 晶則 (オムニバス)
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5,000)	開講期	前期・後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>キャンパスが立地する岐阜県の特徴について、歴史・文化・経済の分野を中心に理解を深め、地域社会のありかたや地域発展の可能性について具体的に考え、理解できる。あわせて、歴史資料(古文書や古地図等)、統計図表の基本的読み方を習得し、その意味を自分の言葉で表現できる。</p> <p>【授業の概略】</p> <p>日本の中央部に位置する岐阜県は、1876(明治9)年、飛騨国と美濃国を統合して成立した。県域は、「飛山濃水」という言葉に象徴されるように、対照的な自然環境を有し、そのもとで過去から現在へと、個性的な政治や社会、文化が営まれてきた。このような地域理解をベースに、講義の第Ⅰ部では、古代から近代に至る美濃・飛騨両国の歴史・文化を中心に、列島全体や周辺地域との関係にも留意しつつ、地域の特徴を探っていく。また、第Ⅱ部では、近代以降の岐阜県経済に焦点をあて、地域活性化に成功した具体的事例や統計データに基づき、地域の発展課題を整理・検討する。</p>		

授業科目名	行動科学	担当教員名	松葉 敬文
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5, 000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 社会科学において対象となる「人間」の行動選択について学び、自由意志による選択と、基本的な選択性向について知ることを目標とする。</p> <p>【授業の概略】 様々な社会科学実験の結果を通じ、人間の選択について学習しつつ、人間の選択決定に与えられる様々な影響について学ぶ。また、選択決定時に参照される情報の呈示法により、人間の選択決定が如何に情報の認知により影響を受けるか、またその結果としてどのような選択が行われるかについても学ぶ。</p>		
授業科目名	生命科学	担当教員名	松本 省吾
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	岐阜キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位 (¥5, 000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】 生命を支える物質、細胞に関する知識を養い、生命をはぐくむ生物が何からできているかについて説明できる。遺伝ならびに遺伝と環境との相互作用について学び、生命の継続について説明できる。食と健康、すなわち生命活動と代謝のメカニズムに関する知識を養い、生きるのに必要な生体エネルギーについて論じることができる。光合成と呼吸についての学びを通して地球規模での生命の循環に関する知識を身につけ、生命のかけがえのなさ、尊さに配慮できる。</p> <p>【授業の概略】 地球上の様々な生物は細胞から成り立っており、同じ基本物質で構成されている。細菌から人に至る生物に共通するメカニズムを基に、生命とは何かについて学ぶ。生命体は何からできているか、生命活動に必要なエネルギー、生体機能に関する知識を養うことで、生命についての理解を深める。生命の継続性について学ぶと同時に、個々の生命体のかけがえのなさ、尊さを知り、生命を慈しみ、育み、守ることの大切さを養うための授業計画に掲げた様々な内容について学ぶ。</p>		